

麦の生産には、土づくり、排水対策が必須です！

今年も麦類の播種時期が近づいてきました。昨年産の結果を踏まえ、以下の点に留意して準備を進めましょう。

1 令和元年産の概要(塩谷南那須地方)

- ◇ 茎立期、出穂期が早い二条大麦は、六条大麦、小麦よりも4月低温の影響を大きく受け、平年より減収した。六条大麦は平年並、小麦はやや多収となった。
- ◇ 二条大麦生産者の栽培履歴から、「土づくり、排水対策、踏圧」の実施と収量との関係が高いと推察され、基本技術の重要性が再確認された。

ニューサチホゴールデン生産における基本技術の実施と収量との関係

| 項目 | 氏家地区 | | | | 高根沢地区 | | | |
|---------|------------|-----|------|------|------------|-----|------|------|
| | 平均収量kg/10a | | | 増収効果 | 平均収量kg/10a | | | 増収効果 |
| | 有りA | 無しB | A/B% | | 有りA | 無しB | A/B% | |
| 土づくり資材等 | 280 | 246 | 114 | ◎ | 280 | 261 | 107 | ○ |
| 排水対策 | 284 | 260 | 109 | ○ | 282 | 247 | 114 | ◎ |
| 踏圧 | 302 | 226 | 134 | ◎ | 278 | 257 | 108 | ○ |

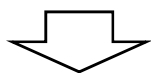
※ 生産者数:氏家地区18名、高根沢地区154名

※ 踏圧回数(平均):氏家地区1.7回、高根沢地区1.85回

2 令和2年産での必須事項

(1) 土づくり

- ア 酸度矯正:pH6.5 以上を目標に、アルカリ資材を施用する。
- イ 苦土補給:黒ボク土水田、畑地は苦土欠になりやすいので多めに施用する。
- ウ リン酸補給:安定した収量を得るためにはリン酸の供給がポイントとなる。麦では即効性リン酸と緩効性リン酸を混用した方が増収効果は高い。

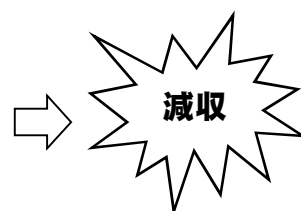


ア～ウの全てを含む「OM-37」「BB健康大地」など使えば省力的

(2) 徹底した排水対策

- ◇ 麦は生育全般を通じて湿害を受けやすい。

| | | | |
|-----|--------|---|-------------|
| 播種時 | 出芽不良 | | |
| 生育時 | 根の伸張停止 | ⇒ | 茎数不足、一穂粒数不足 |
| 登熟期 | | | 粒の充実不足 |



◇ ほ場の排水性を改善するため、以下の排水対策を必ず実施する。

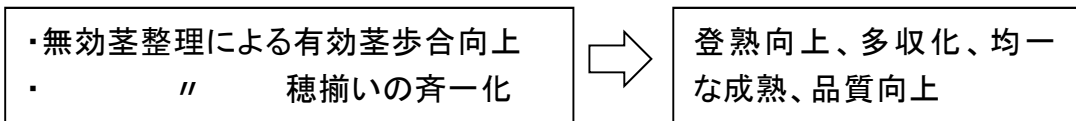
- ① ほ場周囲の排水溝設置
- ② 排水溝の掘り下げ、排水路への接続
- ③ 排水溝や排水口の点検
- ④ 心土破碎・天地返し(例:プラソイラ)
- ⑤ 弾丸暗渠・心土破碎(例:振動式サブソイラ)

麦の栽培
では必須!

(3) 踏圧

◇ 麦の生育を調整する重要な技術であり、その効果は以下の通りである。

- ① 地上部の過剰生育を抑制しながら、
 - ・分げつを旺盛にする
 - ・根張りを深くする
 - ・茎葉汁液濃度を高め、耐寒性を増大させる
- ② 霜柱や凍結層による凍上害を防止する。
- ③ 年明け～茎立期直前(3月上旬)の実施は、暖冬年での茎立ちの早期化を抑え、春先の低温による幼穂凍死を回避する効果が期待できる。
特に、茎立期直前の麦踏みは以下の効果があるので、必ず実施する。



- ④ 年内最低1回、年明け～茎立期直前に必ず2回実施する。乾燥や寒さが厳しい年や二条大麦では回数を増やす。

3 令和2年産の播種時期


◇ 県北部の播種適期は 11 月 1 日～10 日だが、今年は長期予報(1か月、3か月)が暖冬傾向なので、適期よりも5日程度遅らせる。

令和2年産の播種適期 11月6日～15日

関東甲信地方長期予報(気象庁発表)【平均気温】

- ★ 1か月予報(10/24 時点):**高い確率80%**
- ★ 3か月予報(10/25 時点):11 月は平年並または高い確率ともに40%

農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう!



身支度も万全にしてまる!

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する